

特別企画 2012 年度 米麦卸業者 1748 社の経営実態調査

全体で 3 割強の大幅減益 ～仕入れ価格の急上昇が利益を圧迫～

はじめに

2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災以来、品不足感からコメの価格が高止まりする傾向が続いてきた。減反制度による作付けの減少もコメの不足感に拍車をかけた。そうしたなか、T P P 交渉や減反政策廃止の議論が続いており、今後も米麦卸業者の経営環境は不透明な状況だ。

帝国データバンクは、2012 年度、2011 年度の売上高が判明している米麦卸業者 1748 社を自社データベース・企業概要ファイル「COSMOS2」(144 万社収録)から抽出し、分析した。なお、同様の調査は今回が初めて。

※ 米麦卸業者には、米穀卸業のほか麦類卸業を手がけるものも含む。

※ 決算期変更などにより、業績の比較が困難なものを除いた。

調査結果 (概要)

1. 米麦卸業者 1748 社の 2012 年度の売上高合計は、前年度比 6.6% 増の 2 兆 4576 億 300 万円。
東日本大震災以降の米価の高止まりが、販売価格の上昇に寄与した。
2. 当期純損益が前年度と比較可能な米麦卸業者 609 社の 2012 年度の最終損益合計は 74 億 7132 万 7000 円。急激な仕入れ価格の上昇に価格転嫁が追いつかず、前年度比 36.5% 減と大幅減少となった。
3. 地域別に見ると、赤字企業の割合が 3 割を超えたのは四国 (47.6%)、中部 (31.7%)、近畿 (30.3%) の 3 地域。概ね西日本において業績の悪化傾向が顕著となっている。
4. 米麦卸業者の 2013 年の倒産件数は、10 月までに 10 件発生。近年のピークは東日本大震災が発生した 2011 年で 17 件だった。

1. 売上高動向 ～米価の高止りで販売価格上昇～

米麦卸業者 1748社の2012年度の売上高は合計で2兆4576億300万円となり、2011年度（2兆3064億円）から6.6%増加した。2011年3月の東日本大震災以降、市場でコメの不足感が強まったことで米価が高止まり、これが販売価格の上昇に寄与したケースもあり、全体の売上高を押し上げたとみられる。

売上高合計

2011年度	2012年度	前期比(%)
2,306,400	2,457,603	6.6

単位:百万円

2. 損益動向 ～急激な仕入れ価格の上昇が利益を圧迫～

米麦卸業者 1748社のうち、当期純損益が前年度と比較可能な609社の2012年度の合計最終損益は74億7132万7000円で、2011年度（117億6609万9000円）に比べて36.5%減の大幅減少となった。販売価格の上昇はみられたものの、急激な仕入れ価格の上昇に価格転嫁が追いつかず、利益を圧迫する要因となったと考えられる。

赤字となった企業も、2012年度は2011年度から39社増えて139社となった。一方、黒字を確保した470社のうち43.4%にあたる204社が減益となった。

損益が比較可能な609社合計

2011年度	2012年度	前期比(%)
11,766,099	7,471,327	▲ 36.5

単位:千円

2012年度損益内訳

黒字	連続黒字	419
	黒字転換	51
		470(509)
赤字	赤字転落	90
	連続赤字	49
		139(100)
合計		609

※カッコ内は前年度実績

黒字企業470社の内訳

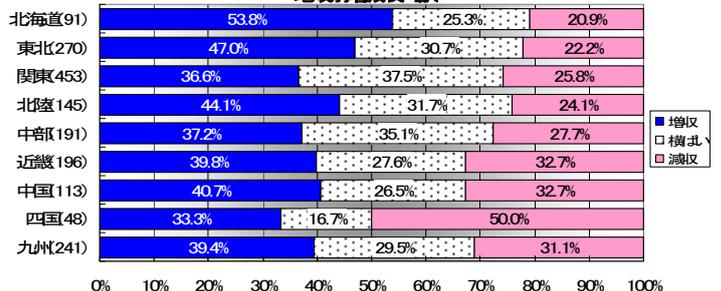
増益	247
横ばい	19
減益	204
合計	470

3. 地域別動向 ～西日本で業績悪化傾向が顕著に～

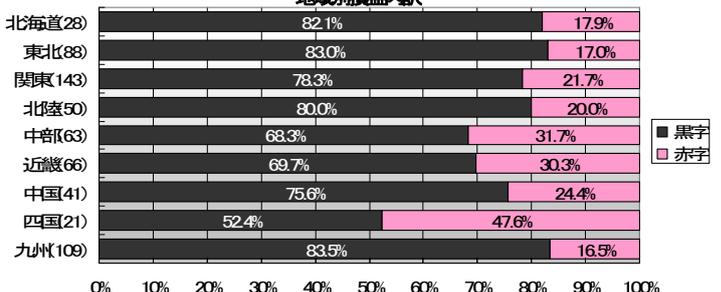
地域別の売上高の動向をみると、増収企業の割合が高かったのが北海道（53.8%）や東北（47.0%）、北陸（44.1%）などで、概ね東日本で増収企業が多い傾向となった。一方、四国は減収企業が半数に達した。

損益面では、赤字企業の割合が3割を超えたのは四国（47.6%）、中部（31.7%）、近畿（30.3%）の3地域。総じて西日本で業績の悪化が見られた。東日本大震災が発生した結果、西日本産米に人気が集まり、西日本において仕入れ価格が上昇した可能性がある。

地域別増収減収内訳



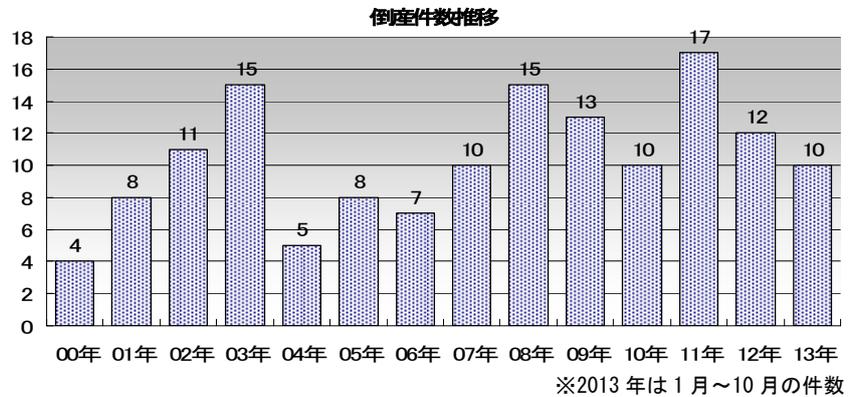
地域別損益内訳



※カッコ内は社数

4. 倒産動向 ～2013年は10月までに10件発生～

米麦卸業者の倒産件数の推移を見ると、近年のピークは東日本大震災が発生した2011年の17件。次いで多かったのが、リーマン・ショックのあった2008年と2003年の15件。2013年は、10月までで10件発生しており、ほぼ前年並みで推移している。



5. 今後の見通し ～米価の下落が利益を圧迫、厳しい経営環境続く～

東日本大震災後の品薄感に引っ張られる形で米価が上昇、仕入れコストが上昇したことで米麦卸業者の利益を圧迫した。ただ実際には、2011年産、2012年産ともに作況は平年以上で流通在庫が増加。農林水産省が10月に発表した「米に関するマンスリーレポート」によると、卸業者などが抱える今年8月時点の流通在庫は前年同期比で33%多い28万トンに達した。2012年産米の在庫が大量に残るなか2013年の新米も出回り、供給過剰により一転して価格の先安感が強まっている。2012年産米については、高値だった時期に仕入れ契約した業者も多いと見られ、米価の下落が進めば利益を圧迫し、今後の業績の下押し要因となる可能性がある。こうした状況を踏まえれば、今秋以降の倒産動向にも影響を与えそうだ。

また、TPP交渉妥結を見据えて5年後の減反の廃止について自民・公明の与党が了承するなど、国内農業の競争力強化に向けた動きも出始めている。こうした取り組みは米価の下落につながる可能性があり、加えてコメの消費量も減少していることから、今後も米麦卸業者にとって厳しい経営環境が続くとみられる。

【内容に関する問い合わせ先】

(株) 帝国データバンク 東京支社情報部 担当：山口 亮
TEL 03-5919-9341 FAX 03-5919-9348

当レポートの著作権は(株)帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。報道目的以外の利用につきましては、著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。